

最終報告  
(2016年6月28日～12月16日)

国際ロータリー第2710地区  
2015-2016年度 グローバル補助金奨学生  
藤村 武蔵

1. 報告書提出日：2016年12月16日

2. 基本情報

- ・氏名：藤村武蔵
- ・派遣ホストクラブ及びカウンセラー：岩国中央ロータリークラブ、Mr Hidenori FUJISHIGE
- ・受入ホストクラブ及びカウンセラー：Edgware and Stanmore Rotary Club, Ms. Maxine Offredy

第三回報告書提出後、6月下旬にロンドンに戻り9月1日締め切りの修士論文の執筆に取り組んでいます。日本とは異なりあまり暑さはなく、毎日非常に過ごし易い天気が続いていました。これまで、難民キャンプの現場での調査活動に従事していたため、他の学生に比べると私の修士論文の進度はかなり遅れを取っており、毎日机に座り先行研究・論文調査やデータ分析、執筆と休む暇なく執筆を続けておりますが、ジョギングや水泳等、残り少なくなってきたロンドンでの最後の時間を楽しみました。今回の最終報告書では、修士論文執筆に焦点を当てて報告をさせて頂きたいと思います。

### 学業面での成果

私は、大学の図書館よりも自宅の自分の部屋の方が集中して執筆に専念できるため、毎日朝から夜の11時くらいまで机に向かっています。隔週、あるいは週に1度、スーパーバイザーに会いに大学に行く以外は、ほぼ自宅で勉強しています。以前から、行動が先行してしまう人間であると自覚してきたのですが、今回の修士論文も現場での行動や熱意のみが先走りしてしまい、修士論文の構成や下調べがおろそかになってしまっていたため、帰国してから遅れを取り戻すのに非常に苦労しました。私の修士論文は、自分で調査し集めたデータを元に論文全体の構成を決める手法をとっていたため、約1ヶ月で2万字(約50ページ)のレポートを英語で執筆しなければいけませんでした。しかし、私を担当してくださった教授の方は、非常に私の論文のテーマを気に入ってくださり、多い時には週1回、あるいは隔週で指導して下さる機械を与えてくださり、そのミーティングに合わせ、段階的に論文を仕上げていくことができました。

大学院での勉強を始め、様々な場面で英語を使い活動や執筆には慣れてきておりましたが、1ヶ月で2万字の論文を完成させるというプレッシャーはかなり大きく(単に2万字書くだけではなく、執筆に全般関連する調査等すべてが含まれていました)、毎日休む暇なく取り組んでおりました。そのおかげもあり、約1ヶ月ですべてを完成させることができ、同じコースの友人には非常に驚かれました。それだけではなく、1ヶ月という短期間で自分の納得のいく論文を書くことができるという大きな自信にも繋がりました。担当教官も論文のできを称賛して下さり、非常に感慨深い経験をさせていただきました。

### 受け入れ地区でのロータリーとの関わり

受け入れ地区とのロータリー・クラブとは、イギリスに帰国して以来、論文執筆で非常に忙しくしていたため、執筆が完了するまでは直接お会いする機械はありませんでしたが、論文執筆が終了した後に、私の現地カウンセラーのマキシンの新しいご自宅で、日本食を振る舞う機会をいただきました。この会は、以前からマキシンのご自宅で日本食パーティをしたいと言い続けてきた私の要望で実現しました。カウンセラーのマキシさんは、ロンドンに到

着したその日に空港まで迎えに来てくださったり、定例会の参加のコーディネートや送り迎え等、本当に親身になって私を支えてくださいました。長く引っ越し等でお忙しくしていたため、ご自宅に伺う機会はあまりありませんでしたが、ロンドンを出る前にこれまでの感謝をこめて、日本食を作らせていただきました。マキシソンさんは、非常に喜んでくださり、帰国間近ではありましたが、この1年を振り返り様々な話しをすることができました。マキシソンさんは来年度の奨学生のカウンセラーでもあり、私がロンドンをでた1週間後に新しく奨学生を迎え入れるというお話を聞き、私の大学院生活も早終わりを迎えようとしていることを痛感致しました。

また、9月14日に受け入れ地区のロータリークラブの定例会にご招待いただいたのですが、既にフランスの難民キャンプでの調査活動への参加を決めていたため、現地フランスからスカイプを通して、30分ほどクラブの皆様の前でお話をさせていただきました。クラブ会員の多くの皆様が私



帰国直前にロータリーの奨学生と食事

が以前から行っている難民キャンプでの活動に大きな興味と関心を寄せてくださっており、現場の様子を移しながらのスカイプ会議では、たくさんの質問やねぎらいのお言葉をいただきました。最後にクラブの皆様へご挨拶できなかったことは非常に残念ですが、多くの方からまたロンドンに戻って来た際には連絡をするようにと、温かいお言葉をいただきました。

### 帰国後のロータリーとの関わり

11月下旬にギリシャでの活動を終え、日本に帰国した後は、推薦クラブの定例会と、送り出し地区の報告会に参加させていただきました。定例会での卓話が帰国して始めて留学経験についてお話をさせていただく機会であったため、日本を出発して1年3ヶ月の期間を振り返り、将来の展望をしっかりと見据える有意義な機会となりました。同日に行われた報告会では、来年度に留学を控えた奨学生候補の方ともお話する機会をいただくことができ、ロータリーを通していただくことができるネットワークの広さを改めて実感致しました。どちらの会でも、多くの方からねぎらいの言葉をかけていただき、ロータリー財団のグローバル補助金で留学をさせていただくことができたことに対する感謝の気持ちがこみ上げてきました。今後も、できるだけロータリーとの関わりを持ち続け、私のように留学を通して新しい分野、学問に挑戦したいと考えている方々のお役にたてるように努めて行きたと思っています。

### 今後の課題・目標

現在は、日本に帰国しこれからの進路を見据え、就職活動を行っております。私が今後の5

年間活動をしていく上で、非常に大きな比重をしめているのが、“現場”での活動です。フランスやギリシャでの活動を通じ、現場で活動することの喜びと必要性を心から痛感致しました。特に私が強く関心を寄せている難民キャンプにおける子どもたちは、最も不利な立場にたたされてしまいがちなカテゴリーに入ります。人身売買や性的搾取等の人道的な被害に加え、健全な発育に必須となる子ども時代特有の活動を経験することができない状況に置かれてしまいがちです。このような状況にある子どもたちの助けとなれるように、この 5 年間活動を続けると共に、現場の子どもたちが何を必要としているのか、何を求めているのかを自身の肌で感じる期間にしたいと思っています。

もう一点、このロンドンでの留学経験で得たものは、次なる目標が設定できたことです。上記したように 5 年間の“現場”での活動を終えた後は、もちろん現場で感じた必要性に応じて変更する場合がありますが、今はカウンセリングについて改めて勉強をしたいと思っています。今後 10 年間以内に、難民の子どもたちの心をサポートできる専門家としてキャリアを進めていきたいと強く思いを新たにしました。

### これから留学を始める奨学生へのアドバイス

今回は、修士論文の執筆を中心に執筆させていただいたため、修士論文に関するアドバイスをさせていただければと思います。上記させていただいたように、私は最後の 1 ヶ月間で論文執筆を完成させました。もちろん、完成度に納得していますが、もしももっと時間をかけることができたなら。。。という思いもあります。ですので、これから修士論文に取り組まれる方、特にイギリスでの修士号取得(1年間)を目指されている方は、できるだけ早い段階から修士論文の構成を組みじっくりと論文執筆にあたられることをお勧めします。特に、デスクワークだけでなく現場でのデータ収集に従事することを予定されている方は、データ収集を実施する前に最低限の先行研究の調査と執筆を実施することが必要かと思います。私自身、多くの項目を実施できておらず、フィールド調査後に非常に苦勞したので、強くお勧めしたいと思います。

また、全体としては、ロンドンという世界の主要都市で勉強でき、その利点をたくさん享受することができたので、今後ロンドンで留学される方は、本当に多くの機会が身近にあるので、積極的に学内の活動だけでなく、学外にも足を運び、ロンドンという立地を最大限活かしていただきたいと思います。



ロンドンを出る直前に企画したピクニック後、近くのバーで→

最後になってしまいましたが、この度はロータリー財団より留学する機会を頂きましたこと、心より感謝しております。今後は、グローバル補助金の OB として少しでも本事業の発展と継続に貢献していきたいと考えておりますので、今後とも何卒よろしくお願い致します。本事業に奨学生として参加させていただきましたことに対する感謝と、今後の本事業のますますの発展を願ひまして、最終報告とさせていただきます。